

ご挨拶

第 18 回日本口腔感染症学会総会
総会長 山根 伸夫

この度、18 回日本口腔感染症学会総会ならびに学術大会を、北関東の足利の地で開催させていただく機会を与えていただき、大変光栄に存じますとともに、会員の皆様に深く御礼申し上げます。

この学会は大学および病院の勤務医、開業医、さらに近年では歯科衛生士の方々も含め、三者がともに感染症に関する研鑽を積み、歯科医療における感染予防や感染症の治療などのテーマを専門的に扱う学会です。

感染症を考える前に人類と微生物との関わりについて考える必要があると思います。両者の出会いは有史以来であります、その違いは我々が彼ら無しに生存することは不可能ですが、彼らは我々無しでも生きていくことは可能なことです。したがって彼らに我々人類は絶対に勝てないという謙虚さが必要であり、どう彼らを制御できるかということを考え、その時代時代の技術力に合った制御法を試みるのが重要です。このことを考え、感染症というものを捉えることにより、いまの我々ほどの感染症をどの程度制御できるかが見えて来るのかもしれないと考えています。

今総会ではそのようなことを踏まえ、教育講演（認定医・衛生士の講習会）では「今春の豚インフルエンザの反省と今後の対策と展望」というテーマを企画し、いま流行している新型インフルエンザに対する対応について考えられればと思っています。またシンポジウムでは「口腔感染症におけるリスクファクター」をテーマに種々の病態のリスクファクターについて第一線の臨床家に問題定義を行っていただき、さらに要望演題では感染予防に熱意ある臨床家ご自身が実践している感染予防の工夫についてお示しいただくことを予定しています。どちらの企画にも色々な御意見が活発に討議いただけることを期待いたします。さらに今総会では新たにランチョンセミナーを設け、口腔衛生と関係深い嚥下性肺炎をテーマに「嚥下性肺炎の診断と治療」を呼吸器専門医に御拝聴させていただく予定です。一般演題も 19 題もの興味深い演題をいただきましたので、活発な意見交換が行われますことを願っております。

なお、本学会閉会後になりますが、併催します第 90 回 ICD 講習会につきましても、制御の難しい耐性菌と真菌をテーマに選びましたので、多くの方の参加を願っています。

最後に、本学会の開催にあたりまして、講師の先生方にはご多忙にも関わらず快くお引き受けいただきましたことを、心より感謝申し上げますとともに、開催にご尽力いただきました関係各位の皆様には厚く御礼申し上げます。

ご参加いただきました皆様にとって有意義な学術大会になりますように、祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。